

第3学年*組 国語科学習指導案

指導者 石田 里香

1 単元 世界の民話を読もう「木かげにごろり」 補助教材「さるかに」

2 目標

- 世界の民話に興味・関心をもって読み進めようとする。(関心・意欲・態度)
 世界の民話を読み、そのおもしろさが伝わるように、ポスターを作って紹介することができる。(書くこと)
 時を表す言葉や人物の行動などから、心情の変化を読み取ることができる。(読むこと)
 副詞や接続語、反復表現の意味や語法について理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 指導にあたって

(1) 単元について

本単元は新学習指導要領の第3学年及び第4学年の「読むこと」の指導事項ウ「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」に関連する。教材文「木かげにごろり」を読んで、場面の移り変わりや人物の心情や行動をとらえ、民話のおもしろさを読み取ったあと、世界の民話を読み、作品のおもしろさが伝わるようにポスターを作る活動を行う単元である。

本教材は、朝鮮半島に古くから伝わる民話で、お百姓たちが機転を利かせて欲張りな地主を懲らしめるお話である。地主(強者)とお百姓(弱者)の立場が逆転し、次第に意気消沈していく地主の様子が時間の経過とともに描かれており、場面の移り変わりや人物の心情をとらえやすい。また、地理的・文化的に深いかわりのある朝鮮半島の民話は児童にも共感が得られやすい。また、同じ言葉が繰り返されており、独特のリズムの中に民話の世界を味わうことができる。

補助教材の「さるかに」は日本の民話であり、カニに意地悪をしたサルが最後にはやつつけられてしまい、強者と弱者の立場が逆転する。日本の民話を取り上げることで、民話に共通するやさしさ・愛情・正義など、国が違っても大切なことは同じであること、そして、民話には人の心をひきつけるものがあるから語り継がれていることに気付くことができると考える。

(2) 児童の実態(在籍*名)

(調査人数*人 10月16日実施)

本学級の児童は、読書が好きな児童が多い。ほとんどが絵本であるが、1学期の「自然のかくし絵」の学習から、生き物などの説明的な文章にも興味をもち始め、読書のジャンルが広がっている。しかし、音読をすると読み間違いが多く、特にひらがなを思いこみで読んでしまい、じっくり文章を味わって読んでいるとは言えない。

1学期は自分の考えを話したり書いたりすることを苦手と感じている児童が多かったが、ペアやグループでの話し合いを通して、自分の考えをもち、交流することができるようになってきた。「ゆうすげ村の小さな旅館」では、叙述に即して、場面や心情の変化をとらえることは比較的できるようになってきたが、根拠を明らかにしながら、自分の意見を書いたり、話したりすることは、十分身に付いていない状況である。そこで、国語科を中心に他教科でも、感じたこと考えたことを書いてまとめる時間をもつようにしている。

【教師から見た実態】

A 十分満足できる B おおむね満足できる
 1 登場人物の気持ちの変化を叙述を基に想像して読むことができる。

A *人 B *人

2 文章を読んで考えたことを、根拠をはっきりさせて書いたり話したりすることができる。

A *人 B *人

【意識調査から】

1 自分の考えをみんなの前で話すことは好きですか。

はい *人 いいえ *人

2 昔話を読むのは好きですか。

はい *人 いいえ *人

(わからない言葉が多いから)

(3) 指導観

本単元の導入では、世界の国々の民話コーナーを作り、自由に読み進められる環境を用意する。民話に対する興味をもたせ、民話の語り口のおもしろさや、民話独自の表現や特徴に触れさせて、教材文の読み取りに対する意欲付けとする。

読み取りの段階では、時間の経過を表す言葉・場所を表す言葉・人物のしたことや会話文をもとに、場面の移り変わりを表に整理し、互いの読みを交流する。交流した読みを心情曲線に表すことで登場人物の気持ちの変化、逆転するおもしろさを視覚的にも実感できるようにする。互いの読みを交流する際に主体的な読みができるよう、「一人読み」の時間を確保する。自力で読むための手立てとして、地主とお百姓たちを色分けしてサイドラインを引き、それを手がかりに様子や気持ちを自分の言葉で書き換えさせたい。また、繰り返し音読することで、会話や「ごろり」という言葉の繰り返しのおもしろさも読み味わえるようにする。

さらに、「木かげにごろり」で獲得した一人読みの視点をもとに「さるかに」について一人読みをし、民話の特徴について話し合い、共通点や相違点に視点を当てて読み比べるという、これまでとは違う方法で作品を読んでいく学習を加える。そうすることで、作品を深く読めるおもしろさに気付かせ、多面的に考える力を育てたい。また、国語力の基盤である読書の幅を広げ、世界の民話というジャンルを読む読書活動への意欲付けにつなげたい。

次の単元の「想ぞうを広げて」では、ここで読み取った視点や民話の特徴を使って絵を見て物

語を書く活動を取り入れ、教材文の読み取りや民話の特徴を見つける学習に目的意識をもって主体的に取り組めるようにしたい。

- (4) 研究テーマ「自分の考えを豊かに表現できる児童の育成」との関連
 読みの視点を明確にして一人読みをし、そこで書いたものをもとに自分の考えをもって交流活動に参加することで、自分の考えを自分の言葉で積極的に表現する態度を養うことができると考える。また、二つの民話の共通点から民話の特徴をつかむ学習は、読書の方法を広げ、表現力の基礎となる言葉に対する豊かな感覚を身に付けるもととなる。
 次の単元では、見つけた民話の特徴を使って物語を書く学習活動を組み入れ、創造的な表現をする楽しさを実感させて表現力を豊かにしていきたい。

4 指導と評価の計画（13時間扱い）

次	時間	学 習 活 動・内 容	評価の観 点	評 価 規 準 おおむね満足できる状況（B）
一	1	・全文を読み、初発の感想を書く。	関	・民話に興味をもち、進んで初発の感想を書いておもしろかったことをまとめている。 (ノート・発言)
	2	・初発の感想を発表し合い、それをもとに、学習の見通しを立てる。	関	・世界の民話に興味をもって、学習に意欲的に取り組もうとしている。 (発言・ノート)
二	3	・場面分けをし、第1場面から、地主とお百姓の人物像や関係を読み取り、第2場面から、木陰を買い取ったお百姓達の気持ちを考える。	読	・地主とお百姓達の間接関係をつかみ、木陰を買い取ったお百姓達の気持ちを読み取っている。 (ノート・ワークシート)
	4	・第3・4場面を読み木陰を買い取った後の出来事や地主とお百姓達の気持ちの変化を考える。	読	・木陰が伸びた場所とそのときの人物の言動を表にまとめ、地主とお百姓の気持ちの変化を読み取っている。 (ノート・ワークシート)
	5	・第5・6場面を読み、地主とお百姓たちの気持ちの変化を読み取る。	読	・叙述に着目して場面の移り変わりを整理しながら、地主とお百姓たちの気持ちと立場の変化を読み取っている。 (ノート・ワークシート)
	6	・話の全体を振り返りながら、おもしろかったところやお百姓の知恵、教訓などについて気が付いたことを発表する。	読 話聞	・おもしろかった点などについて自分なりの意見をもち、自分と友達との相違点や共通点を比べながら話したり聞いたりしている。 (発言・ワークシート)
三	7 8	・「さるかに」を読み、「木かげにごろり」の学習を参考に一人読みをする。	読	・登場人物の気持ちの変化について、叙述に着目して読み取っている。 (一人読みのワークシート)
	9 本時	・二つの民話を比べて読み、共通点や教訓について話し合う。	読	・二つの民話を読み比べ、民話の特徴に気付くことができる。 (ノート・発言)
四	10	・自分で選んだ民話を読み、おもしろかったところなどをメモカードに記録する。	関	・意欲をもって民話を読み広げようとしている。 (行動観察・メモ)
	11 12	・読んだ民話の中から、ポスターを作るお話を選び、紹介する内容を決めてポスターを作る。	書	・お話のおもしろさや心に残ったことが伝わるように、紹介文やあらすじの書き方を考えながらポスターを作っている。 (ポスター)
	13	・ポスターを紹介し合い、感想を伝え合う。	話聞	・お話のおもしろさが伝わるように発表したり、友達の発表のよさを見つけようとしている。 (発表・ノート)

10	<p>4 本時の学習を振り返り，学習のまとめをする。</p> <p>(1) 意見交流をもとに二つの教材を読み比べて，民話のひみつについて気がついたこと感じたことを書いて，発表する。</p> <p>(2) 世界の民話を読み，紹介するポスターを作ったり，絵を見て物語を作ったりすることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている民話の中で，弱者と強者が逆転する話や威張っている者がやっつけられてしまう話がないか出させて，ここで出てきた勸善懲悪・正義が民話の特徴の一つであることをとらえやすくする。 ・この二つの教材は国が違うことを確認し，国が違って昔の人が伝えたい思いには同じものがあることに気付くようにする。 ・本時の学習を振り返り，話合いを通して分かったことを自分の言葉でノートにまとめ，理解を深めるようにする。 ・民話風の物語を書くときに，どんなひみつ(特徴)を入れたらよいか，という観点からも自分の考えを書くように助言する。 <p>二つの作品を読み比べて，共通点から民話の特徴に気付き，自分なりの言葉で書いている。 (ノート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の世界の民話の本を提示したり，物語を作る絵を見せたりして意欲付けをし，次時は，他にも民話の「ひみつ」を見つけながらたくさんの民話を読んで，ポスターにして紹介することを知らせる。
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(4) 板書計画

木かげにごろり(さるかに)

「木かげにごろり」と「さるかに」を比べて読んで、民話のひみつをみつけよう。

△物語の読みの視点▽

△ひみつ▽

登場人物

中心人物

時 場所

お話の図

どんなことが起こったか

変わったこと

一番大きく変わったこと

一文で書くと

おもしろい表現

昔の人は何を言いたかったのか

その他

グループから出された共通点が書かれたカードを分類して、各読みの視点の下に張る。

物語を作る
ときの絵

黒板の隣に「木かげにごろり」で読み取った，読みの視点と心情曲線を掲示する。